

# 2024年3月期 第3四半期 臨時説明会



**Power Electronics  
for Your Innovat!on**

サンケン電気株式会社

2024年2月7日

- 2023年度 第3四半期業績
- 令和6年能登半島地震の影響
- 今後の見通し
- xEV成長戦略

# 2023年度 第3四半期業績

- 売上高 3Q累計1,798億円 前期比+166億円 (+10%)  
うち、為替影響は+75億円。
- デバイス売上高 3Q累計 前期比+179億円 (+11%)
  - ・車 +221億円 (+27%)
  - ・白物 ▲ 59億円 (▲14%)
  - ・産機・民生 + 18億円 (+5%)
- 営業利益 3Q累計 218億円 前期比+49億円 (+29%)  
内訳：サンケンコア 11億円、米国事業 211億円、  
連結調整他▲4億円。
- 業績予想 令和6年能登半島地震の影響により、  
通期の業績予想を取り下げ（詳細後述）

(億円)

	22年度				23年度				3Q累計 前年比	
	1Q	2Q	3Q	3Q累計	1Q	2Q	3Q	3Q累計	金額	増減率※
売上高	496	563	573	1,633	599	616	<b>583</b>	<b>1,798</b>	+166	+10.1
デバイス	483	545	555	1,583	586	605	<b>571</b>	<b>1,762</b>	+179	+11.3
旧ユニット	14	19	18	50	13	12	<b>12</b>	<b>37</b>	-14	-27.0
営業利益	9	73	87	169	85	86	<b>46</b>	<b>218</b>	+49	+29.2
経常利益	12	72	89	173	79	88	<b>40</b>	<b>207</b>	+34	+19.7
当期純利益	2	28	35	65	22	22	<b>0</b>	<b>45</b>	-20	-30.5

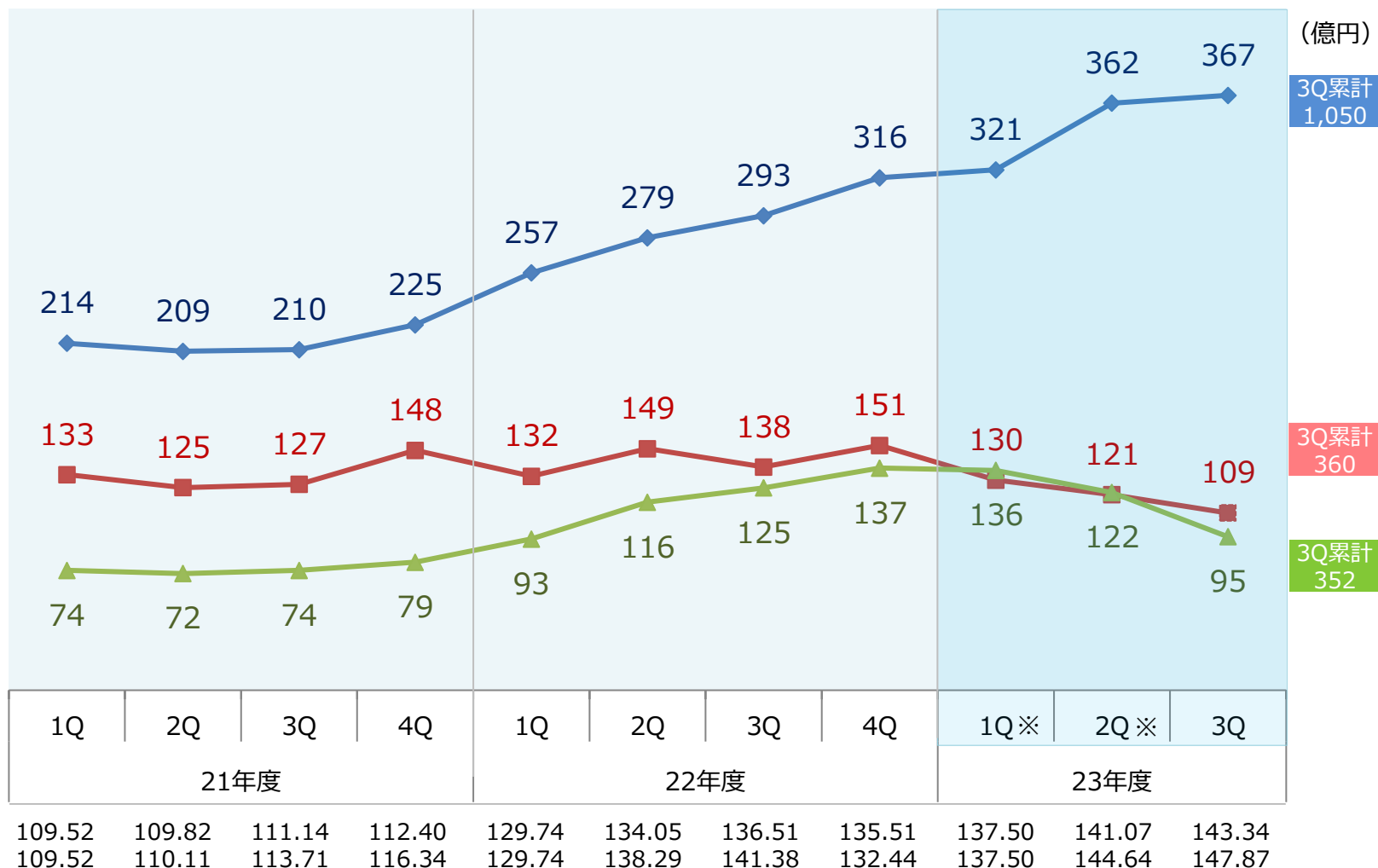
為替レート/US\$    129.74   134.05   136.51   136.51   137.50   141.07   143.34   143.34    ※百万円単位で算出

### <主な変動要素>

営業費用	: 22年度1Q	アレグロの前CEO退任による株式報酬費用	34 億円
その他	: 23年度3Q累計	アレグロ等の非支配株主持分 法人税等	112 億円 33 億円

# 市場別 デバイス連結売上高 四半期推移

3Q累計 前年比 デバイス計 +11% (自動車 +27% 白物家電 ▲14% 産機・民生 +5%)



※1Q、2Qの市場別数値を修正

## ～マクロ経済の動向～

- 世界経済は緩やかに減速、回復への力強さ欠く
- 特に中国は企業・消費マインドが低迷
- 需要減衰に伴う半導体・電子部品の在庫調整は当面継続

## 自動車市場

- CY2024 W/W OEM生産台数予測 92M台（前年比+1M）
- 車載向けアナログ半導体に対する需要は引き続き堅調
- 顧客が調整に至るほどの在庫水準にはなっていない

## 白物家電市場

- 日系 市場：国内外とも需要低調  
顧客：各社生産減
- 中国 市場：住宅販売の調整長期化  
顧客：エアコン大手の計画は前年比微増、当社品は在庫調整
- 韓国 市場：洗濯機は北米高級機が伸長  
顧客：生産計画は昨年比6%増

## 産機/民生市場

- <産機>
- センサー・パワーデバイスは、引き続きデータセンター向けを中心にディストリビュータの大幅な在庫調整となった
  - 業務用空調/AWHP（温水暖房）向けのパワーモジュールの開発案件は拡大している
- <民生>
- TV生産は主要顧客の生産計画が想定を下回る状況

# 令和6年能登半島地震の影響



- 地震発生状況 2024年1月1日16:10頃 地震発生 **最大震度 7** (石川県志賀町)



※気象庁資料に基づき当社作成

## 石川サンケン 3 工場の立地

堀松工場 志賀町 → 震度 6 弱



志賀工場 志賀町 → 震度 6 弱



能登工場 能登町 → 震度 6 弱



# サンケングループのサプライチェーン

## サンケン電気 本社

開発・設計

試作

開発・設計  
試作



技術センター



ものづくり技術センター



先進技術推進センター  
(石川)



ソウルパッケージデザインセンター

アドバンスドパワーデバイス  
テクノロジー



台湾サンケンデザインセンター



アレグロマイクロシステムズ

チップ製造

ウエハ検査

前工程



山形サンケン



PSL

外部委託 (ファンダリ)



福島サンケン

後工程

アッセンブリ (組立)



石川サンケン



大連サンケン

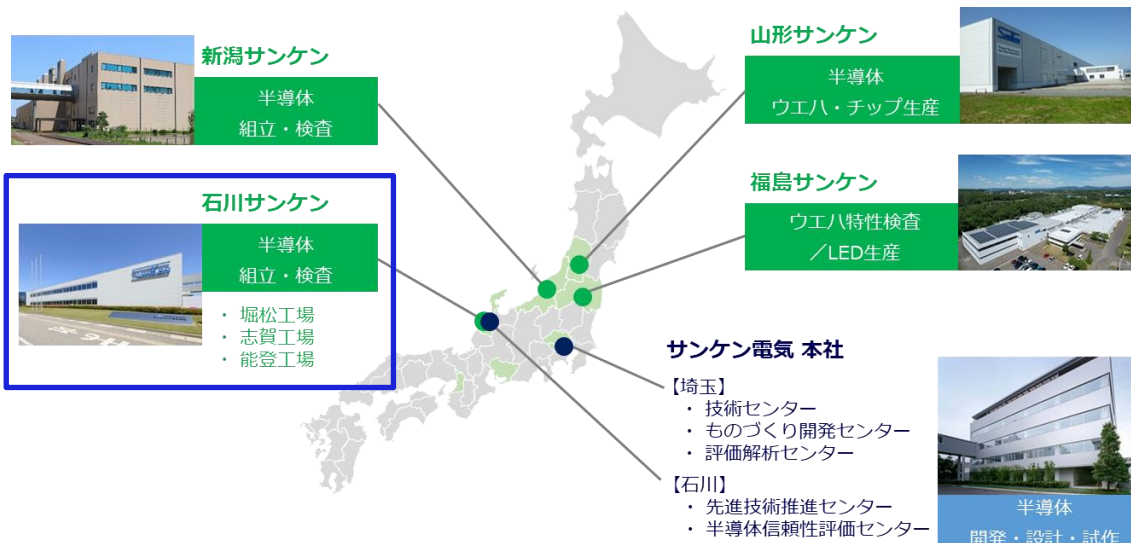


新潟サンケン

外部委託 (OSAT)

<製品・用途>	パワーモジュール	パワーデバイス
堀松工場	自動車・白物向け	
志賀工場	自動車・白物・産機向け	
能登工場	-	自動車・産機・民生向け

石川サンケン 3 工場は後工程を担う



# 被災状況（1）

## ● 初動対応

- 1/1 16:10 最大震度7の地震発生
- 1/1 16:51 安否確認エマージェンシーコール発信
- 1/1 17:00 災害対策本部設置
- 1/2 10:00 災害対策本部会議 初回実施
- 1/2 担当役員派遣
- 1/2 リース第一報公表開始
- 
- 1/9 従業員の安否確認完了公表

## ● 石川地区 従業員の状況

- ・従業員数 1,100名（堀松・志賀工場 800名 能登工場 300名）
- ・安否確認 1/1時点未確認者 230名 → 1/9全員無事を確認
- ・被災状況 けが人 若干名
- ・出社状況 1/2より各工場の被害状況を確認開始（管理職を中心）  
1/31時点状況  
堀松・志賀工場：ほぼ全社員の出社可能  
能登工場：約30%が出社に課題あり（通勤手段・避難中）  
→出勤困難者のため、工場周辺に70名分の宿舎確保（今後も継続予定）

## ● 工場の状況（復旧活動の経緯）

	堀松工場			志賀工場			能登工場		
	建物	電気	水	建物	電気	水	建物	電気	水
発生直後	倒壊なし	○	△	倒壊なし	×	×	倒壊なし	○	×
1月前半	—	○	△→○ 給水車	—	×→△ 非常発電	×	—	○	×→○ 上水復旧
1月後半	—	○	○ 上水復旧	—	△→○ 復旧	×→○ 上水復旧	—	○	○

堀松 上水不通のため、給水車活用による応急対応実施

志賀 全インフラ（建物・電気・水）に課題があり、最短の供給に向け、堀松での一部製品の代替生産を決定

能登 奥能登地区の被害（道路・住宅・水道等）が甚大であり  
当社グループより復旧支援チームを集中配置

## ● 建物・構内の状況

安全確認（建物）：堀松は完了、能登および志賀は追加調査を実施中

修復（建物・構内）：3工場とも継続中

## ● 2月見通し

<凡例> 復旧度合 5: 100% 4: 75% 3: 50% 2: 25% 1: 25%未満

	堀松工場			志賀工場			能登工場		
	従業員	設備	生産再開	従業員	設備	生産再開	従業員	設備	生産再開
2月前半	4	3	2	4	2	1	3	3	2
2月後半	5	4	3	5	3	2	4	4	3

- 堀松**
- ・生産再開 1/30
  - ・志賀製品の一部代替生産開始 計画 2/上→2/6開始済
- 志賀**
- ・生産再開 2/中旬を予定
  - ・構内施設の修復作業と設備立上作業を併行して実施へ
- 能登**
- ・生産再開 1/30
  - ・従業員の出勤体制支援およびシフト勤務体制構築が必要
- 共通**
- ・設備立上と生産再開後の保全作業の同時対応に向けた工数が課題

# 今後の見通し

## ● 2024年3月期通期業績予想の取り下げ

現時点、下記の項目が明確化できないため、合理的に算定することが困難と判断

- ・生産の全面再開時期及び規模
- ・出荷の見通し
- ・建物・設備等の被害による損失
- ・生産再開後の品質確認にかかる時間
- ・生産人員の確保

## ● 24中計骨子の公表延期

- ・震災復旧活動を優先するため、24中計策定活動を停止
- ・策定してきた24中計各施策に対する震災影響を考慮の上、再策定が必須と判断

## ● 2025年3月期通期業績への影響可能性

- ・震災前に想定していた投資計画の変化、および復旧計画による費用増
- ・生産の全面再開時期および規模の変動による売上と利益の変化

## ● 震災リカバリープランの策定

- ・石川サンケン再興に向けた恒久的な施策立案
- ・サプライチェーンの強靱化・BCP対策の強化

## ● 次期中期経営計画の立て直し

### <震災前の想定>

- 24中計最終年次（2027年3月期）のありたい姿：サンケンコア営業利益率 2桁確保
- 実現に向けた各施策案：生産性改善、新製品比率向上、コスト削減

### <震災後の変化点>

- 利益改善計画（新製品立上、石川サンケン生産性改善、部品コスト低減）の見直し
- 復旧・復興コスト発生
- 他社転注リスク

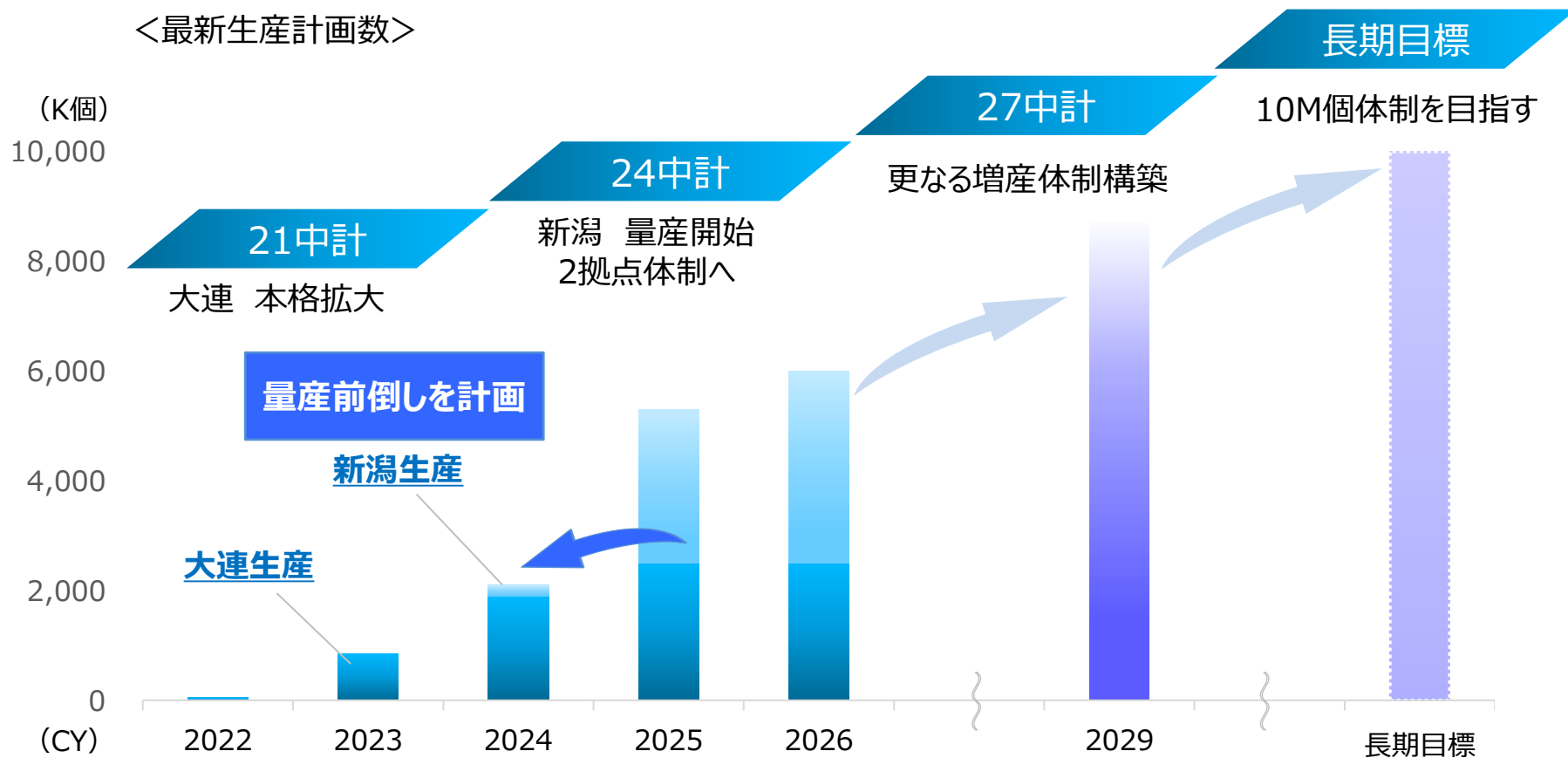
→次期中計は、利益改善を軸とした当初計画に加え、震災による種々の変化点をリカバリーするための施策が必要

→24中計の再構築を進め、24年5月に新方針の公表を目指す



# xEV成長戦略

- 新潟サンケンが2024年4月に竣工し、順次生産設備の設置を開始予定
- 顧客の需要増に対応するため、新潟では前倒しで2024年中に量産体制確立を目指し、顧客の調達計画に沿った生産準備を進めていく





2024年3月期 第3四半期 臨時説明会

## 将来に関する記述についての注意事項

この資料に記載されている当社及び当社グループに関する業績見通し、計画、方針、戦略、目標、予定、判断、認識などのうち既に確定した事実でない記述は、将来に関する記述です。これら将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する前提を基礎として作成したものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいます。従って、実際の業績は、これらのリスク、不確実性、その他の要因により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。また、当社は、適用法令の要件に服する場合を除き、業績見通しの見直しを含め、将来に関する記述を更新あるいは修正して公表する義務を負うものではありません。

当社が属するエレクトロニクス業界は、常に急激な変化に晒されていますが、当社の業績や財産に重大な影響を与えるリスク、不確実性、その他の要因には、（1）経済環境、市場・需給動向、競争状態、（2）為替レートの変動、（3）技術進化への追従の成否、（4）原材料の高騰あるいは調達難、（5）各国・地域における法制度の変更あるいは社会情勢の急変、（6）偶発事象の発生などがありますが、これらに限定されるものではありません。